

## <整理整頓，片付けができない>

学校の道具箱や家の机の引き出しに物がごちゃごちゃに入っていて、なかなか整理できない。鉛筆や消しゴムを落としても気付かず，物をよくなる。このように整理整頓，片付けが苦手な子は，その子の特性に原因があることがあります。

記憶力の弱さ…今持っている物をどこから出したか忘れてしまう。

片付ける場所がわからないので，その辺に放っておく。

判断力の弱さ…今すぐ使う物，後で使う物，使い終わった物の区別がつきにくい。

全部机に広げてしまい，いっそう混乱する。

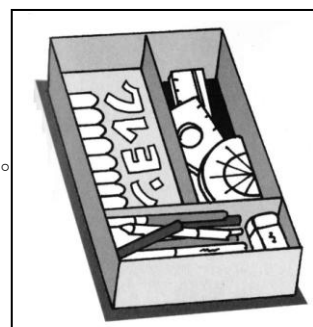
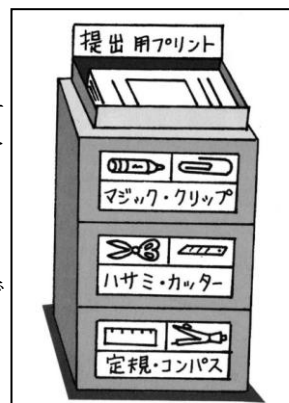
視覚的認知の弱さ…目的の物が目の前にあっても見つけられず，探すうちに物が広がっていき。似ている物は，自分の物か友だちの物か判断できない。

注意のうつりやすさ…Aを探していたのにBが目に入り，それに気を取られてAを探すことを忘れてしまう。

このような特性をもつ子は，怠けて片付けないのではなく，片付けることが“できない”のだと考えて，対応していくことが必要です。

### <対応・支援の方法>

- ・整理されていないことに気付いたら，できるだけ早く片付けさせる。物が広がる前に片付けた方が片付けやすく，片付いたことを実感しやすい。
- ・クラス全員の「片付けタイム」をつくる。一人だけやらせると劣等感をもちやすい。  
例「雨の日の昼休みは，道具箱の整理が終わった人から，遊んでよい」など
- ・きれいになったことをほめる。片付けが終わったら「きれいになったね」「すっきりしたね」と評価する。きれいに片付くと気持ちがよいことを実感させる。
- ・最初は一緒に片付け，やり方を教える。徐々にひとりでできることを増やす。（初めから一人ではできませんが，いつまでも全面的に手伝っていると依存するようになる。）
- ・みんなが使う物は，入れる場所がわかるようにラベルをつける。
- ・道具箱に仕切り板をつける。どこに何を入れるかが決まっていると片付けやすい。



### <注意>

片付けられないことを非難しない。わざとやっているわけではないので，非難してもできるようにならない上，自己肯定感や意欲がさがる。

### 家庭では…

散らかった部屋では落ち着いて学習することができません。手がつけられないほど散らかってしまうと、片付けるのが面倒になるので，そうなる前に片付ける習慣をつけるとよいです。また，一度にたくさん片付けるのは大変です。

「今日は引き出し1段分」など，あまり負担を感じない量にするとよいでしょう。

片付けられたあとは，「お疲れさま」「がんばったね」とほめ，すっきりして気持ちがいい，部屋を広々と使えることなど，片付けの良さを感じさせることも大切です。

